

戦争がすべてをうばった

日本軍は真珠湾こうげきのあと、最初は優位だったが、1942(昭和17)年6月のミッドウェー海戦からどんどん不利になっていった。アメリカ軍による日本本土への空襲も激しくなり、空から無差別に爆弾を落とされ、たくさんの人々がぎせいになった。



みんなこわかっただろうね。

くなにもかも灰になった



東京の空は、B29爆撃機におおいつくされた。



晴海通りを逃げる親子。



現在の銀座五丁目にあった地下鉄銀座駅入り口で、救助活動を行う人々。

1944(昭和19)年11月、東京ではじめて空襲があつてから、たびたびくり返された。そのうち最も被害が大きかったのは、翌年3月10日の「東京大空襲」で、東京の4割を焼きつくしたほどだった。中央区内もひどい火災となり、浜町の明治座で100人以上のぎせいを出した。川に逃げた人もおぼれてなくなった。区内の公園が遺体の安置所となり、十思公園には約800体もの遺体が運びこまれたという。その後も空襲は8月13日まで続き、その間、東京に飛来したアメリカ軍機は4347機、落とされた爆弾は1万1642発、焼夷弾(火事を起こす爆弾)は38万9241発だったという。

たくさんのぎせいを出してやっとなつたんだね。



戦争による中央区の被害

死亡者	日本橋区	1257人
	京橋区	144人
負傷者	日本橋区	3094人
	京橋区	449人
すべて壊れた家	日本橋区	55戸
	京橋区	73戸
すべて焼けた家	日本橋区	1万1365戸
	京橋区	1万0511戸

※「東京都戦災誌」より。

こうして戦争が終わった

日本は危機的な状況になつても戦争をやめることはせず、多くのぎせい者を出し続けた。日本と同盟国のイタリヤ、ドイツがイギリス、アメリカ、ソ連の連合軍に次々に降伏していても、日本は戦争を続けた。そのため、アメリカは1945(昭和20)年8月6日広島に、9日には長崎に原子爆弾を落とす。さらにソ連が参戦してきたため、日本は15日にやっとなつた。

15日、そかい先で「戦争が終わった」という昭和天皇の放送(玉音放送)を聞く子どもたち。



英語が町を埋めつくした

生き残った人たちは、なんとか生活を回復させようとしていた。日本中が混乱するなか、アメリカを中心とした連合軍の軍兵(進駐軍)が日本にやってきた。中央区にもたくさんの軍兵がやってきて、焼け残った数少ないビルや建物を取り上げた。これを「接収」という。取り上げられた建物は、服部時計店(現・和光)、明石小学校、聖路加病院、中央卸売市場など40件あまりになった。連合軍の第一の目的は、今まで軍国主義の社会だった日本を、国民みんなが自由に意見を言えるような社会(民主主義→p.89)にするためだった。その指導に当たったのは、連合軍最高司令官総司令部(GHQ)の総司令官マッカーサーだった。



うーん、戦争に負けたってこういうことか。

銀座四丁目の柱に、ニューヨークの繁華街「タイムスクエア」のかんばんをかかげるアメリカ軍兵。



都心を行進する進駐軍。



銀座四丁目交差点で交通整理をするアメリカ軍兵。



服部時計店(現・和光)が進駐軍のお店になった。



英語表示のかんばんが銀座のあちこちにかかげられた。

ギブ・ミー・チョコレート!

戦後の日本はものも食べるものもなく、みんなお腹を空かせていた。そこへたくさんの、大きな体のアメリカ軍兵がやってきた。人々はこわがって近づくとしななかったが、彼らは親しげに子どもたちにチョコレートやチューイングガムをあげた。お腹を空かせていた子どもたちは我れ先にと彼らに群がるようになった。



アメリカ軍兵たちは、子どもたちが今まで見たことも食べたこともないようなものをたくさん持っていたので、彼らにあこがれる子どももいたようだ。